令和６年３月２６日

令和５年度　特別の教育課程の実施状況等について

|  |  |
| --- | --- |
| 大分県 |  |
| 学　校　名 | 管理機関名 | 設置者の別 |
| 姫島村立姫島中学校 | 姫島村教育委員会 | 公立 |

１．学校における特別の教育課程の編成の方針等に関する情報

|  |  |
| --- | --- |
| 学　校　名 | 特別の教育課程の編成の方針等の公表URL |
| 姫島村立姫島中学校 | https://tyu.oita-ed.jp/himesima/himesima/ |

※必要に応じて行を追加すること。

２．学校における自己評価・学校関係者評価の結果公表に関する情報

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 学　校　名 | 自己評価結果の公表URL | 学校関係者評価結果の公表URL |
| 姫島村立姫島中学校 | https://tyu.oita-ed.jp/himesima/himesima/ | https://tyu.oita-ed.jp/himesima/himesima/ |

※必要に応じて行を追加すること。

３．特別の教育課程の実施状況に関する把握・検証結果

（１）特別の教育課程編成・実施計画に基づく教育の実施状況

　　　計画通り実施できている

　　　・一部、計画通り実施できていない

　　　・ほとんど計画通り実施できていない

（２）実施状況に関する特記事項

　　※（１）で「一部、計画通り実施できていない」又は「ほとんど計画通り実施できていない」を選択した場合は、必ず記載する。

（３）保護者及び地域住民その他の関係者に対する情報提供の状況

　　　実施している

　　　・実施していない

＜特記事項＞

　　　　活動の様子を学校新聞「やはず」・学年通信に掲載した。

３． 実施の効果及び課題

（１）特別の教育課程の編成・実施により達成を目指している目標との関係

　　「ふるさと科の取組において、その目標を達成することができている」教職員100％

　　「地域に関心を持ち、地域の行事に参加できている」生徒88.9％

　　「ふるさと科や学校行事でしたことを、家庭で話題にしている」保護者77.7％

　　　本年度、姫島村の無形重要文化財である盆踊りにおいて、中学生を地域の方々と交流させ、地域の一員として参加するよう変更した。そのことにより、地域の方々が中学生の様子をさらによく見守ってくれるようになってきた。また、生徒自身も郷土愛が強まってきている。また、保護者も、地域と密接に関わり、子どもとともに地域に貢献しようとする意欲が見られる。さらに、「姫中生の知らない世界」と題して、キャリア教育の視点を取り入れた活動を実施し、生徒自身が興味のある分野の講師を自らキャスティングし，全校生徒に向けて講演をしてもらう機会を設けた。そのことにより、将来姫島に貢献しようと意欲を高める生徒が増えてきている。今後も、中学生と地域の方々が関われる場をもちつつ、世代を超えて郷土に関心をもっていき、郷土に貢献できることはなにかを考え、行動できる機会を提供し続けていく。

（２）学校教育法等に示す学校教育の目標との関係

　　　姫島を愛し、未来をともに切り拓くために、「生きる力」を重要視し、豊かな体の調和の取れた教育や、生徒が自主的自発的に学習や生活に取り組む資質・能力・態度を育てる基本方針に連動して、「ふるさと科」の取組を行っている。

　　　本年度も、ジオパークの活動を継続して行い、姫島のジオ学習とともに、山口県の中学生とのオンライン交流を通して、郷土への理解を深める活動を行った。そのねらいは、「主体的で対話的な学習」を通して「深い学び」に向かう生徒の育成である。さらに、姫島村で、文化的景観の学習会に参加し、姫島のことを深く知り、良さについて考える機会を設けた。

　　　全校生徒の前で発表する場面を増やし、徐々にコミュニケーションをとること機会を多くしている。今後、この活動が期待する「深い学び」に結びつくように尽力する。

４．課題の改善のための取組の方向性

　　　学校は、「深い学び」に結びつくため、授業改善として、生徒の活動する場を取り入れ、自分の考えをまとめながら発言する機会をつくっている。また、ふるさと教室などを通して、地域の人と関わりを深め、郷土の文化を大切にする活動を行っている。本年度、重要無形文化財である姫島の盆踊りを中学生が地域で踊るという課題が実現した。さらに、地域と関わりを持つ活動を増やしていく。また、姫島の良さを発信するために、はがき新聞を継続して作成する。これらの活動を通して、生徒自身の将来に希望を見いだし、郷土を守り育む生徒の育成を目指していく。